

Management Information

連載 会計実務概論「病医院会計のすべて」

第 2 部 病院会計制度概論

第 10 章 キャッシュ・フロー計算書の様式

10-2 キャッシュ・フロー計算書の基本構造

10-2-1 キャッシュ・フローの源泉と使途

(3) 財務活動 (承前)

3つの区分のうちでもっとも重要なのは、業務活動によるキャッシュ・フローである。この本業部分に必要な資金に余裕がなければ、日々の業務に支障をきたしてしまう。したがって、つねに業務活動によるキャッシュ・フローに注視し、その状況をみて必要な投資活動・財務活動をおこなう必要がある。そして、図表 10-1「I～III」の各活動によるキャッシュ・フローを合計すると、当期のキャッシュ・フローとなり、IVの現金および現金同等物の増加額で表示される。ただし、常に増加するとは限らないので、正の値ならば増加、負の値ならば減少ということになる。IVの当期のキャッシュ・フローに、V期首の現金および現金同等物を加算すると、VI期末の現金および現金同等物が算出される。そして、この金額は貸借対照表の現金および現金同等物の合計金額と一致する。

つまり、キャッシュ・フロー計算書は、当期の資金収支の活動を 3つの区分に分類表示することで、資金がどのような活動に使われたか、またどのように回収されたかが表示され、その結果、期首の現金および現金同等物が会計期間の最後 (期末) にはいくらになったのかが表示されることとなる。

図表 10-1 キャッシュ・フロー計算書の基本構造 (再掲)

I	業務活動によるキャッシュ・フロー
...	...
II	投資活動によるキャッシュ・フロー
...	...
III	財務活動によるキャッシュ・フロー
...	...
IV	現金および現金同等物の増加額 (当期のキャッシュ・フロー)
V	現金および現金同等物の期首残高
VI	現金および現金同等物の期末残高

< 続く >

(井出健二郎著「病医院会計のすべて」日本医療企画より)

# 医師の働き方改革進捗状況

医師の働き方改革についての評価は、医療機関勤務評価センターが助言や指導を行う予定です。医療機関の評価は、医師である「医療サーベイヤー」と社会保険労務士である「労務管理サーベイヤー」が 2名 1組で実施します。

○ 全体評価に記載する内容を以下のように整理する。

1	2		3
労働関係法令及び医療法に規定された事項 (※1)	1以外の労務管理体制や労働時間短縮に向けた取組 (具体的な評価の基準は今後検討)		労働時間の実績 (※2) (改善の度合いで判断とするが具体的な評価の基準は今後検討)
	評価時点における取組状況	今後の取組予定	
	十分	十分	
	改善の必要あり	十分	
全てを満たす	改善の必要あり	見直しの必要あり	改善していない

※1：1の労働関係法令に規定された事項及び医療法に規定された事項に改善が必要な場合は評価保留とする。  
 ※2：具体的には、ロ・連携ロ・シ水準が適用されている医師の各水準ごとの平均労働時間数や、最長労働時間数、実際に年間の時間外・休日労働時間数が960時間を超えた医師数等の実績を基本として検討する。

長時間勤務医師には、同じ医師による面接指導の実施もあります。面接指導実施医師は、以下のような講習を受けます。

- 研修教材 (e-learning) を活用した知識の習得
  - 総論・法制論 (労働基準法・労働安全衛生法・医療法)
  - 健康管理 (特に過重労働・睡眠負債による健康への影響について)
  - メンタルヘルス対策
  - 追加的健康確保措置 (疲労回復に効果的な休息の付与方法、睡眠及び疲労の状況について確認する事項を含めた効果的な面接指導の実施方法)
  - 面接指導実施医師の行う面接指導の模範動画を用いた技術の習得 等
- 受講後の確認試験の実施



※上記図表の出典は「第 18 回医師の働き方改革の推進に関する検討会資料 1 (厚生労働省)」となります。